子供の起業家精神は不滅

「日本人に起業は不向きだ」という世間の論調には大いに疑問を感じる。

毎年、社会貢献の一環として少年少女に起業を体験してもらう活動をしている。私の本業のノウハウを生かしたこのプログラムは一九九九年に東京・大田区の池上本門寺で初めて実施し、今年で五年目になる。

小学生高学年と中・高校生がまず約五人ずつのチームに分かれ、独自の事業計画を作成。大学生ふんする一日ベンチャーキャピタリスト（投資家）を説得する。子供起業家たちは自分で千円程度を出資し、社長を決めて会社を設立登記。そのうえで学生投資家に数万円の株券を発行し、必要準備資本を得る。

次に街に出て資本（現金）を使って商品を仕入れ、祭り会場などで店開きして販売する。売値変更は無論自由だ。終了後、現金を数え、子供たち自ら決算書を作成。本物の会計士に監査証明書を発行してもらい株主総会で営業報告。納税（義援金等に寄付）した後、利益配当して会社を解散する。

出資金が五倍以上になる優秀な会社もあり、持ち株に応じて公平に回収分配される。駄目な会社は赤字になり元本割れ。最初から競争原理が働いている。がり勉が優秀とは限らない。

毎回驚かされるのは、子供たちの資本主義経済、会社設立運営に対する理解の早さ、自然さ、健全さと、状況変化への適応能力の高さだ。子供のたわいないゲームと思うなかれ。本物のベンチャーの起業過程で生じる様々な問題や課題が観察でき、むしろ大人が勉強になる。

この体験から日本の大人たち、とりわけエリートたちの「日本人は元来保守的で、起業家精神が乏しい」という発言が、いかに事実からかい離した言い訳かを毎回思い知らされる。大人こそ目覚めよう。

（日本テクノロジーベンチャーパートナーズ投資事業組合代表　村口　和孝）